

日本短歌大会 in 岡崎 作品集発刊に当たって

日本短歌協会理事長 鈴木淳三

第二回日本短歌大会が岡崎市で開催されたこと、何よりも嬉しいことである。お世話いただいた事務局を始め、実行委員各位、協賛の一筆啓上・作左の会、後援を願った岡崎市教育委員会、東海愛知新聞、岡崎ホームニュースの諸機関。またご協力願った各団体や、関係者の方々に心より御礼申し上げます。

全国より寄せられた多数の作品を拝見しながら、応募された人達の熱意と、その作品の質の高さに感心させられている。昨今、形だけの整った内容のうすい短歌を多く見せつけられて残念に思っている私どもには、今回の応募作品のように、短歌のリズムに忠実に、そして、素直に自己の感動を一首の中心として息づかせている作品に触れることが多かったことをより深く実感している。

短歌は日本語のリズムを基本にした五句三十一音の短詩であり、日本人の心の様を盛るのに最も適した器である。どうかこれからも作歌に励んで、更に良い作品を生むように努力して欲しいと願ってやまない。

皆さんから寄せられた作品が集約されてここに一冊として纏められたこと、永く心に残る記念となることと思う。心よりお慶び申し上げますと共に、こうした企画が更にながく続くことを期待しています。



## 日本短歌大会 in 岡崎を協賛して

一筆啓上・作左の会 会長 小島資行

一筆啓上・作左の会は、徳川家康の重臣であった本多作左衛門重次を顕彰し、彼の遺徳をしるすために作られたものであります。彼の有名な『一筆啓上 火の用心 お仙泣かすな 馬肥やせ』という日本で一番短い手紙があります。彼はこの岡崎、宮地町で誕生し、茨城県取手市で亡くなっております。また、彼の息子の『仙千代』は福井県丸岡町に移住され、城主になっております。

これにより取手市においては『頑固者賞』を創設し、また丸岡町においては『一筆啓上賞』を創設しております。当岡崎市六ツ美西部学区においても生誕の地である以上何らかの方法で彼の遺徳に報いたいという思いがありました。幸いにして学区諸団体をはじめ各方面のご協力を得てを地域住民から、俳句と短歌を募集して『ふるさと賞』を創設し、日本短歌協会の甲村秀雄先生に審査を依頼して、昨年第3回にこぎつけました。

こうした折に、日本短歌協会から、協賛の申出があり栄誉なこととして今年度は、短歌募集をしました所、地域の小中学校及び一般、全国からも多く作品が寄せられ感謝するものです。各後援団体及び「一筆啓上・作左の会」の皆様の協力あつて成しえた事をご報告申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。



最優秀作品 審査員 講評

鈴木諄三 評（東京都在住・日本文藝家協会会員）

一般の部 岡崎市長賞作品

大住迪子 ・ 広島

万華鏡に今のわたしを詰め込んで光を透し見つけて欲しい

ユニークな発想がまず心を捉えた。初々しい相聞歌であり、相手に自分のすべてを知ってもらいたいという切ない欲求が溢れている。ひとつのものが無限の形に見える万華鏡。そうした多様な眼でわたしの本質を知って欲しいという、優しく切ない想いが溢れている。「欠点も見えてしまうよ」などの詮索は余分であろう。

一般の部 日本短歌大会 in 岡崎賞作品

田代耕一 ・ 山口

憎い人を住まわせるため一部屋を心の隅に設えて置く

手馴れた作者の実力を見せている相聞歌。「可愛さ余って憎さが百倍」とまでいかなかったも、人を恋する心の複雑さは何よりも表現しにくいものである。相手に対する想いの深さを反語的表現で言い得たところ見事である。結句 設えておく がやや理に傾いた嫌いがあるが、それだけ知的な二人の関わりなのであろう。

ジュニアの部 中学生 日本短歌大会 in 岡崎賞作品

ふるさとに帰った父母の言葉にはお国なまりが見えかくれする

奥田朱梨 ・ 岡崎 中二

家族の絆がうまく表現されている秀作である。この感性は自然や人に対する自分の宝物です。

ジュニアの部 小学生 岡崎市教育委員会賞作品

長谷川万里愛・岡崎 小三

### 月食の赤黒い月かいきの日づきもちつきキムチ味かな

意表を衝いたこの発想にはびっくりした。確かにそう言われてみれば皆既月食の赤黒い月の中でウサギが搗いた餅はそんな味がするかもしれない。妙に納得してもう一度作品を見直してみた。誰にも教えられず、自在に自分の思いを表現している素直さが、こうした新鮮な把握を生むのである。

甲村秀雄 評（東京都在住・岡崎市出身 日本文藝家協会会員）

一般の部 岡崎市教育委員会賞作品

身内ゆみ ・茨城

### 咲き足りて實を果たせし葉さくらは喪明けのことき薄闇まとう

4

満開になってから早ければ数日の内に、長くても一週間ほどでその役目を終えるのが桜の花だ。たとえ短い間であつても爛漫の春を見事に演出、一つのドラマの責任を果たして桜は葉桜となる「喪明けのことき薄闇まとう」は、なかなか巧みだ。静謐にして厳肅、濃厚な一首である。あるいは、人生の縮図をも感じさせて、いろいろと考えさせられる奥深いものを抱えている秀作である。

一般の部 日本短歌協会賞作品

長谷川きよゑ・茨城

### 一人居の会話そしき日々なれば客多き盆に心ほぐれぬ

夫に先立たれての一人暮らしの作者であろうか、訪れる人もあまりなく静かで単調な日々が続いている。その停止していた時間が、盆になって動き始めた。やや説明的ではある上の句の《静》から、下の句の《動》へと叙述が展

開していく。分かりやすい言葉で素直に心情を語った、その詠風に好感がもたれる。地に足の着いた、堅実な秀作である。

ジュニアの部 中学生 岡崎市教育委員会賞作品

小林まゆみ ・ 岡崎 中二

### シャーペンの音だけ響く図書館で仲間意識が少し芽生える

図書館での風景を詠んでいるのだが、その風景を第三者に側から客観視しているのではなく、その中に溶け込んでいる自分を中心に置いての一首にまとめている。やや微妙な心理、青春の揺らめきのようなものも表現されていて、不思議な魅力を感じさせる。下の句「仲間意識が少し芽生える」がポイントで、いくらか具体性に欠けていて、抽象的な点が残念だ。秀でた佳作。

5

ジュニアの部 小学生 日本短歌協会賞作品

宮野咲季 ・ 庄原 小六

### 秋風がもみじの手紙おしながら配達をするあなたに届け

秋風が紅葉を運んでくる季節。一首の全体にレトリック（修辞法）が駆使されていて、ほぼ成功しているといえよう。紅葉を「手紙」に例え、「おしながら配達をする」というように擬人化している。似たような類型があるとは言え、これはこれで面白い捉え方だと思つ。難点は第四句で切れるのか切れないのかにあるが、私は四句切れの一首と理解した。夢を感じさせる佳作。

齋藤すみ子 評（岡崎市在住・日本文藝家協会会員）

一般の部 岡崎市議会議長賞作品

飛弾雅子 ・ 神奈川

**誇りかんにほひし梅の時は過ぎしがみつきめる蕊に雨降る**

自信満々に香った時は過ぎ、雨に落とされまいと木にしがみつく梅の蕊。見方が鋭く、事柄の対比だけでなはない深い内容を持つ歌。

ジュニアの部 中学生 日本短歌協会賞作品

加納真緒子・岡崎 中一

**新品の剣道防具みがく夜明日のけいこ楽しみにして**

明日から剣道のけいこが始まる。新品の防具を大切にみがく様子がいきいきと表現されていて、印象の深い新鮮な歌になった。

ジュニアの部 小学生 日本短歌大会 in 岡崎賞作品

池上留以・庄原 小五

**目をつむり小鳥の声を聞いてみるチュチュチュビチュビと話かけるよ**

鳥のさえずりなどを似た言葉に置きかえることを「聞きなし」という。この小鳥の声は何ともあいらしく、なめらかで調べがいい。

優秀作品集 一般の部

しまいたるもんぺ取り出しつぎあてる母の戦後のいまだ終わらず

栗原 潔

広島県

わが裡に飼ひならされし調律師不協和音のいづる日もあり

築 雅子

大分県

喜びと哀しみの時積み重ね心に描く市松模様

星野とみ子

茨城県

なぞなぞのシユル絵画展わが孫の作にも似たる出来と思ひし

高木 増祐

愛知県

舅を背負い稲田見せたる日の遠く畦刈跡の草につまずく

立花千富

広島県

蝉しぐれふと止むまひるを樹群影ゆらり瞑く立ち上がりくる

宇佐美矢寿子

茨城県

さはさはとみどりを流す草の精そつと自浄の刻をくださる

高瀬紀子

北海道

露草の透明な青二つ三つ庭の朝露消えぬ間を咲く

中村和子

広島県

夕映えの綾には染まず人の心しずかならしむ逆光の富士

瀬良垣克夫

東京都

何もかも萎えて灼かるる炎昼にひるみておれぬ自転車を漕ぐ

浅野京子

茨城県

ひび入りしガラスの器が身とこころ繕いながら古稀を過ぎたり

岡部修平

東京都

虻つつみ芙蓉の花は今日を閉じひとりに余る灯をともさむか

照沼とよ子

茨城県

噴水の落とす水輪はひたひたと心のひだを映し寄せる

大河内つゆ子

東京都

マンシヨンの蛇口に暑気の去るを知る季の移ろいビルにもありて

大河内つゆ子

東京都

舞臺の史記嫌うならねど筑波嶺はわれ関せずと澄まして聳ゆ

秋葉静枝

茨城県

優秀作品集 ジュニアの部 中学生

夏の海夕暮れ時に一本の光の道に心ゆらめく

先輩のクラブ紹介光ってる志望校でのオーブンスクール

初夏の日の英語の授業の声に混じり蝉の声聞いた窓際の席

あと一歩力の限り走りぬげゴールにきつと仲間がいるから

友達の数だけ自分笑顔ある人の数だけ善悪がある

雲が飛び田んぼが広がるこの景色十年後にはどんな風景

外を見る今日もかわらず鳥が飛ぶそよかぜにのりあすにむかつて

あついひびそんなまいにちいっばんをほんきにつてるじぶんがほしい 足立優香

日焼けはね水泳部員の勲章さ逆パンダだって恥ずかしくない

恋愛は勉強よりむずかしい相手の気持ちどうなんだろう

砂時計過去へ未来へ行き来する私も行き来してみたい

教室の窓から見える水田は緑と黄色でゆれている

ああ夏だいつしかセミがないているその上をゆく風鈴の音

空を見て君の笑顔を思い出す今も隣で見れたらいいな

夏の日にオーケストラの始まりだいろんなセミの個性がでてる

石神知葉 行方市 一年

古家麻里絵 庄原市 三年

小椎尾鈴香 岡崎市 三年

古田恵理 " " 二年

田中小枝 " " 二年

芝村悠平 " " 二年

宮森貴浩 " " 二年

奥西扶実 " " 二年

杉浦有美 " " 二年

石川有沙 " " 二年

原田彩加 " " 一年

金岡柚希 " " 一年

井上典子 " " 一年

浅井宏太 " " 一年

葉の色が黄色や赤に変わるころ風りんだけが淋しくなってる  
 夏の夜せんこう花火をともしたらまわりがきれいにひかっている  
 夏の日の涼しい音色の正体は風と合唱風りんの歌  
 夏の日の台風一過の夕方は緑の稲が波うつ田んぼ  
 夏の朝ふと目覚めると太陽が元氣いっぱい輝いている

山形夕侑 岡崎市 一年  
 武田奈々 " 一年  
 籠尾佳香 " 一年  
 水澗夏花 " 一年  
 野村義考 " 一年

優秀作品集 ジュニアの部 小学生

青白黄空のほう石流れ星あつとみとれてねがいわされる  
 秋になりもみじが赤くそまつてる緑の森も赤くそまつた  
 才オクワをつかまえちゃった大ものだぼくの手だつてちぎられちゃいそう田原令望  
 青い空ぶかぶかうかぶ白い雲ピヨピヨきこえる小鳥の声  
 ヒジキかな？ 思つて見てたら動きだす！ウニヨロウニヨヤステが出たぞ！太田佑祈  
 口あけてリズムにのつてがくふみてポンポンとびだすお玉じゃくしが  
 けんかした何だかぼくは変な顔みんなの顔もちがつて見える  
 とびこみ台ふえの音がきこえたらすぐにとびこむぜつたいまけない  
 しゃぼん玉ふわりふわりととんでいくこころのなかもにじいろになる  
 ひぬまがわ汚れた水が流れてるきれいな水が流れればいい

長谷川万里愛 岡崎市 三年  
 河野准一 庄原市 三年  
 森友輝 岡崎市 四年  
 横井亜季 " 六年  
 前田北斗 " 六年  
 萩原優実 " 六年  
 後藤麻奈美 大洗町 六年  
 後藤麻奈美 " "

佳作集 一般の部

紫陽花のえにしを伝う大原へ行き交う人の声寂かなる  
ねじれよる黒雲のさき山消えて影もひしゃぐ山里の夏  
ゆるやかに円をえがきて二羽の鳶触れむばかりに湖上に舞へり  
膝を病む妻にまふしき石段を歩速ゆるめて氏神さまへ  
大粒の日照雨ふりきて椿の葉さながら自動演奏の鍵盤  
おはしまに凭れてうつむく人のいて絹布流すごと静けき水  
金柑の最後の一つを銜え持ちリズムをとりに鴨は飛びゆく  
宣言があるにしろ無いにしろ降る時は降る今朝の梅雨あけ  
今年また春の時間を光らせて歩道一面桜咲きたり  
逝きし夫の齡をひとつわれは越ゆ好みたる鯉の甘露煮を供へむ  
雨垂れのひたりひたりと軒を打ち梅雨前線閑かに降る  
夕映えの矢作の堤見渡せばマラソンの人走り行くなり  
出穂の稲田みどりの直立に粉を吹くごとき花盛りなり  
ふと出会う狸に目くばせ一時を騙されつつ干す白のブラウス  
光合成さかななるかな緑々と草が波立つむせかへるまで  
車椅子に押さるる人は日常の齒痒さあらん目の前をゆく

ミン・エイキ 愛知県  
柵木 誠 愛知県  
名節澄子 愛知県  
伊佐治五郎 愛知県  
加藤八重子 東京都  
森迫 晴子 千葉県  
矢永 信 福岡県  
林 三重子 東京都  
中村健治 滋賀県  
福地久子 静岡県  
岡戸美代子 東京都  
岩月輝子 愛知県  
河本今代 岡山県  
沖野泰子 広島県  
高瀬紀子 北海道  
竹川侑子 秋田県

キーワードは記号なりけり隣席の嫗言ひたる秋の薄暮れ  
 絶えしかと思いし喇叭の音高し夕映えの路地に豆腐売り来る  
 疲れたる眼三角口への字女孫の書きしわれの似顔絵  
 防除歴見つつ作業を進むるも梨もブドウも病害多し  
 参考書読むより果樹は慈しみ木を葉を見よと父母の教えは  
 忘れなき記憶いくつか身に潜み予期せぬときに脳裡を走る  
 譲れぬと思ふは辛し人知れず夜の動物園に鳴く犀の声  
 夾竹桃くれない深くかれんなり象をも殺す毒持ちながら  
 猛けだけしき蜂おとろえて寄り集うやつでの花に余生托して  
 葬式のデザインブック届けられる花と甲辞と好きな賛美歌と  
 千体のみ佛ぬますうす暗きみ堂に佛のざわめき聞ゆ  
 祖母のぬて牛蒡そぎをり明け方の涼しき夢ぞわれもその齡  
 頬をうちて過ぎたる蝉の鋭き声は葉月永遠なる伝言ときく  
 夕早く無人の家に帰りくるここよりほかに行くところなく  
 傘かしげ雨の歩道にすれ違ふをとか若きかシトロン匂ふ  
 入道雲車窓に連れて二駅を過ぎて再び隧道に入る  
 きびきびと動くナースに若き日の吾を重ねて診察を待つ  
 老いて尚逝きし倅に身をこがすハンバーグ供う少し控えて

岡田通子	愛知県
青山 晋朗	愛知県
永井裕子	茨城県
緑川久恵	茨城県
緑川久恵	茨城県
岡部 修平	東京都
東 木の實	広島県
津田 典男	東京都
津田 典男	東京都
赤堀香代子	長野県
大原智子	東京都
伊藤 伸	愛知県
小川 玲	愛知県
東野典子	千葉県
横川雅子	神奈川県
小山典子	熊本県
平井よし	埼玉県
田辺俊子	新潟県

隠り沼のめぐりの草はもみぢしてしばし晩夏の反照うつこく  
転作の色とりどりの花の波稻田にかはるコスモスの花

井上文子  
犬塚喜代治

島根県  
愛知県

佳作集 ジュニア中学生の部

朝の風手足を広げきもちよく心やすらぐもうつひと眠り

中根依理子

岡崎市 2

あせながし仲間とともに過ごした日せいっぱいの歌をうたおう

大崎有紗

2

かぜつよいたいふうがきて嫌なかんじやねがとばされさいあくだなあ

榊原慎

2

ドラゴンズこんシーズンはにほんいちオレリゆうかんとかよくよろしくたのむ 夏目大史

岩瀬里奈

2

夏休み暑い日差しのその中で球を打ち合うネットをこして

遠海康弘

2

夏休み部活だらけで過ぎていきでも楽しかったな職場体験

三矢花

2

なつやすみぶかつぱっかりたいへんだでもえるものはいっぱいあった

金原麻菜

2

ごくごくと水を飲む音がする中学校の体育館

小林舞

2

夏休み残りの課題数えたらあまりの量にめまいがくらり

戸松俊太

2

スーパ―に今年もならぶなつのあじ野菜やくだものいろいろないろ

植田健

2

妹がプールできやあきやあ遊ぶころ僕は真夏の蒸し風呂で走る

牧野雄大

2

夏休みセミはミンミンうるさくて親はガミガミうるさいなあ

山形夕侑

1

部活動一度も休まず参加して力落とさず生活できた

1

見るだけで心が和む送り物天からもらった火という宝

1

1

チリンチリン部屋に響く夏の音耳だけじゃなく心に響く	山形夕侑	岡崎市	1
自分からやり方見つけるそれこそがほんとの勉強なんだよね	山形夕侑		1
大会でみんなの心一つにしつなげきつた一本のバトン	岩本愛美		1
夏の朝しずくが光り鳥が飛ぶ朝日が草木を明るく照らす	前田祐希		1
夏の夜かすかに聞こえるいろんな音たくさん混じる虫の合唱	奥野有紀		1
夏休みぶかつに宿題大変だすぐあついしむしがうるさい	伊奈明来歩		1
梅雨明けて一気に響くセミの声今年も夏がやってきたなあ	上野春香		1
なつやすみ一生懸命部活動強い心を入れるため	池田勇人		1
いまからだサツカーじんせいほんばんだシユートを決めるぜがんばるぜ	比永圭祐		1
夏休みプールで泳ぐがんばるぞ全種目が泳げるように	澤島良太		1
夜空咲く打ち上げ花火もいいけれど線香花火もけっこう好きかも	細江彩芳		1
夏色に太陽がてらすえんがわで母さん一人昼寝している	林梨 奈		1
暑い夏部活の後のかきごおりがんばったほどおいしくなるよ	大川立樹		1
夏休み起きた時にはもう九時だ部活におくれるめざましどこだ	鈴木琢己		1
夏みかんあまいはあまいこのあまさこのあまさはほんまにあまい	山尾太陽		1
キャンプでかにさされすぎねむれないそのまま朝をむかえたよ	山北大介		1
あおぞらにまいにちかがやくたいようせみもとんぼもキラキラひかる	小林稚菜		1
汗だくで部活の帰りせみの声さらに暑さがました気がする	遠山琴美		1



金色の麦の穂ゆれるさらさらと夏が近いと知らせているよ

蜂須賀三稀 岡崎市

4

父とつり道具とえさはばつちりだでもあいかわらずのボウズだったよ

鈴木悠太

6

水泳でタイムをのばす平泳ぎ必死でのばすぞ気力でのばす

野田恵太

6

カタツムリ雨ふりの日ものんびりでマイペースなのがおもしろいな

原田裕香

6

楽しいね一年生とサッカーはやさしくボールをけてあげるよ

星野竜一

6

あじさいがさいたよさいたきれいだなわたし青すき見とれてしまう

太田阿里香

4

すもの木さわつちやだめだよあかちゃんの実もつすぐほっぺ赤くするから

村松華凜

4

きょうだいでいっつもけんかするけれどすぐなかなおりでもまたけんか

神尾莉彩

4

おばあちゃんの時代は今より苦労した料理に洗たく手間がかかったよ

大石絢莉

4

一筆啓上・作左の会企業会員 16 社	
フレンドショップホンダ	岡崎市宮地町字寺北 19
(有)成田新聞店	宮地町馬場 14-2
三美電気工業(株)	宮地町前畑 11
(有)柴田建材	宮地町寺北 27-1
丸三建設(株)	宮地町柳畑 24-1
日本中央交通(株)	宮地町柳畑 18
城南整形外科	宮地町柳畑 47-1
(株)大久保東海	宮地町郷西 11-1
日東製缶(株)	宮地町字郷東 39
(株)愛健酵素	宮地町字北浦 10
(有)光和サービス	下青野町太田河原 33
にししん六ッ美支店	法性寺町柳之内 36-1
(株)丸豊板金工業	中之郷町野外 11-11
鈴木自動車商会	中之郷町溝田 5-1
(株)坂野工業所	中之郷町野外 11-1
柵木建設工業(株)	赤浜町上郷中 15
一筆啓上・作左の会個人会員 80 名 (平成 19 年 10 月)	

日本短歌大会 in 岡崎は、一筆啓上・作左の会協賛により開催しました。岡崎市六ッ美西部学区の文化振興団体です。

<b>日本短歌大会 in 岡崎 応募作品集</b>	
<b>発 行</b>	<b>日本短歌協会</b>
	東京都大田区仲池上 2 - 2 2 - 1 - 1 1 0 5
<b>編 集</b>	<b>日本短歌大会 in 岡崎</b>
	事務局 小島資行
	平成 1 9 年 1 2 月 1 日刊行